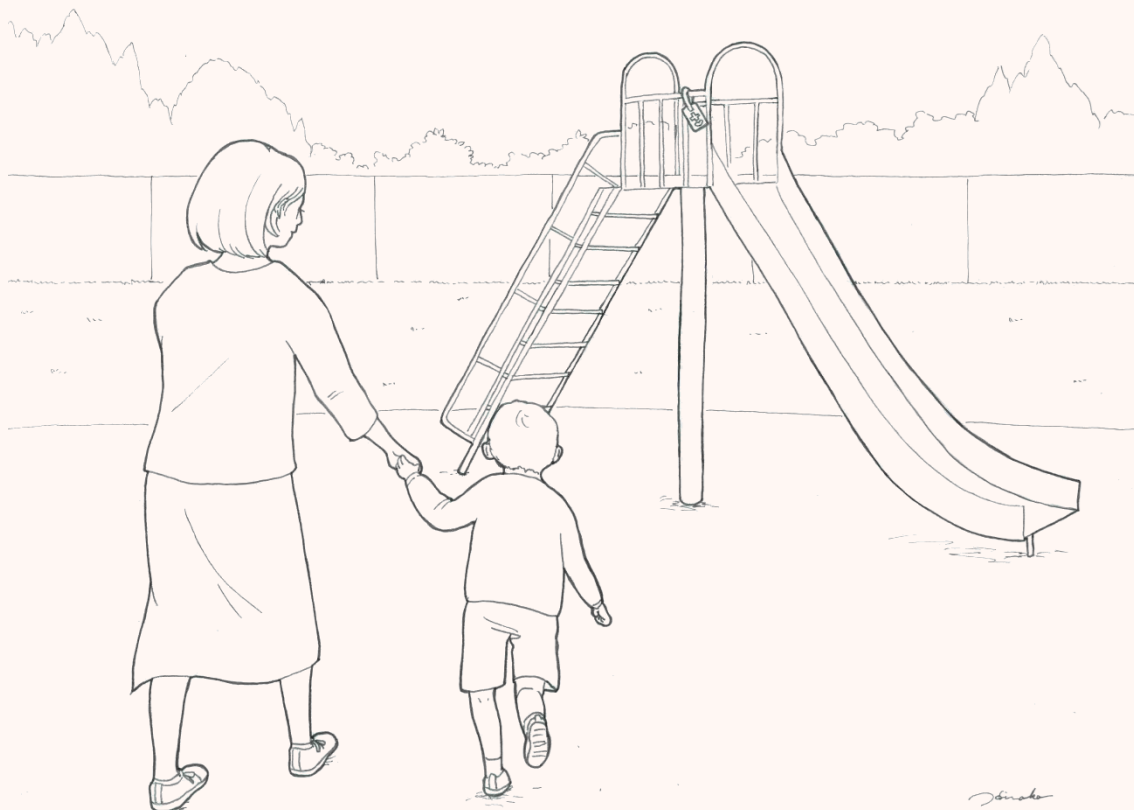


見え^みないものが見え^みるカード

いま、あるカードに^{かんけい}関係する3つの^{はなし}話を^{しょうかい}紹介します。



3人の子^{にん}どもが^こいるお母^{かあ}さんがいます。ある日^ひ、このお母^{かあ}さんの携^{けい}帯^{たい}電^{でん}話^わに、
た^{でん}く^わさん電^{でん}話^わが^かか^って^きま^した。し^かも、全^{ぜん}部^ぶ違^{ちが}う電^{でん}話^わ番^{ばん}号^{ごう}で、知^しら^ない人^{ひと}
し^た。お母^{かあ}さん^は、誰^{だれ}か^らだ^らう？怖^{こわ}いな…と^{おも}い^なが^ら、電^{でん}話^わを^かけ^まし^た。
す^と、電^{でん}話^わか^ら「公^{こう}園^{えん}に^おへ^るカ^ード^が落^おち^てい^ます^よ。」と^きこ^えて^きま^した。
た。お母^{かあ}さん^は、昨^{きのう}日^のこ^とを^{おも}い^だし^まし^た。そ^うい^えば、公^{こう}園^{えん}か^ら帰^{かえ}る^とき、
む^すこ^がへ^るカ^ード^をつ^けて^いな^かっ^たか^もし^れな^い…。た^ぶん、公^{こう}園^{えん}で^{あそ}ぶ^んで

いる間に、ヘルプカードが邪魔になって、自分で取ってしまったのだろう…。

「すみません、子どもが公園に置いてきたようです。」とお母さんは電話で話しました。「そうですか。『よく迷子になります』とカードに書いてあるから、心配しました。でも、元気ならよかったです。」と、電話から優しい声が聞こえました。電話を切った後で、お母さんは息子さんと一緒に、ヘルプカードを取りに公園へ向かいました。その途中で、また知らない番号の電話がたくさんかかってきました。電話から「公園にヘルプカードが落ちていました。すべり台に置いておきますね。」と聞こえました。お母さんは、「ありがとうございます。すぐ、公園へ行きます。」と返事をしました。優しい人が多い町だなと思って、温かい気持ちになりました。



ある男性は病院へ行くために、バスに乗りました。すると、お年寄りや体が不自由な人のための優先席に若い女性が座っていました。男性は、なぜ若い女性がこの席に座っているのか？と思いながら、バスの一番後ろの席に座りました。バスは出発し、次のバス停で、杖を持ったお年寄りが乗ってきました。男性が後ろの席から見ていると、若い女性がすぐにお年寄りに席を譲りました。よく見ると、若い女性はヘルプカードをつけていました。男性は、あっ！と思い、席を立ちました。若い女性の肩をたたいて、自分が座っていた席を譲りました。女性

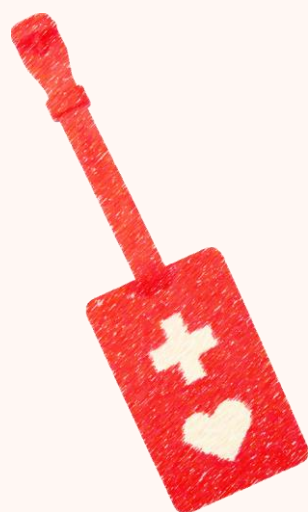
は笑顔でお礼を言って、その席に座りました。実は、この男性もカバンのなかに、ヘルプカードを入れていました。しかし、この時は体調がよかったので、バスの中で立っていても大丈夫だろうと思いました。男性は、優先席に座る若い女性を見たとき、嫌な気持ちになりました。しかし、その後で、自分のことを恥ずかしいと思いました。





しごと お あと だんせい ち かつ えき なか ある
仕事が終わった後で、ある男性は地下鉄の駅の中を歩いていました。このとき、
だい だんせい たお だんせい はし だいじょうぶ
30代ぐらいの男性が倒れていました。男性のところへ走って行って、「大丈夫で
すか!？」と聞きました。き きゅうきゅうしゃ よ けいたいでん わ さが いち
救急車を呼ぶため、携帯電話を探しました。もう一
ど たお だんせい み だんせい くび あか
度、倒れている男性を見ると、この男性は首から赤いカードをかけていました。
ヘルプカード?これはなんだろう?とおも み わたし とつぜんねむ
ってしまう病気があります。ふん お きゅうきゅうしゃ よ
5分ぐらいで起きます。救急車を呼ばないでく
ださい。」と書いてありました。やく ふん ご たお だんせい ねむ
約5分後、倒れていた男性は「あー、また眠っ
てしまった…」とい お おきました。ねむ かお だいじょうぶ
言って、起きました。眠そうな顔で「もう大丈夫です!」と

い
言^{ある}って、歩^{たす}いていきました。助けようとした男性^{だんせい}は「起^おこしてごめんなさい」と
あやま
謝^{あやま}りました。



ヘルプカードは、赤^{あか}いカードです。十^{じゅう}字^じとハートのマーク^かが書^かいてあります。
このカードは、足^{あし}をなくした人^{ひと}、すぐ疲^{つか}れる人、トイレ^ふが不自由^{じゆう}な人^{ひと}、携^け帯^{たい}の電^{でん}
波^ばやタバコ^{けむり}の煙^{よわ}に弱^{ひと}い人、妊^{にん}娠^{しん}したばかり^{ひと}の人^もなどが持^もっています。このよう
な人^{ひと}たちは、体^{からだ}の見^みえないところ^なに何^{なん}か問^{もん}題^{だい}が有^あります。見^みただけではわ^わかり
ませ^せん。それ^{おし}を教^{おし}えるた^ために、ヘルプカード^つが作^{つく}られま^ました。み^たん^あな^あで助^{たす}け合^あう
社^{しゃ}会^{かい}にするた^ため^めです。

1つ目^めの^{はなし}話^わで、公^{こう}園^{えん}にヘルプカード^{わす}を忘^{わす}れた息^{むすこ}子^こさん^じは自^じ閉^{へい}症^{しょう}で、コ^こミュ^ニニ
ケ^けーシ^しョ^うン^んに問^{もん}題^{だい}が有^あります。迷^{まい}子^ごにな^なった^たとき、う^{はな}ま^まく話^わすこ^こがで^できま^ませ^せん。
お^{かあ}母^ぼさん^{さん}は、息^{むすこ}子^こさん^{さん}がよ^まく迷^{まい}子^ごにな^なるので、い^{しん}づ^づも心^{しん}配^{ぱい}して^{して}いま^ました。そ^その^のた

め、電話番号を書いたヘルプカードを息子に持たせていたのです。2つ目の話では、ヘルプカードを持つ若い女性がお年寄りに席を譲りました。そして、ヘルプカードを持つ男性がその若い女性に席を譲りました。この男性は、心臓の病気のため、ヘルプカードを持っていたのです。3つ目の話は、突然眠ってしまう病気の男性は、自分がいつ眠ってしまうかわかりません。みんなが驚かないように、ヘルプカードに自分の病気について説明を書いておいたのです。

体のなかの問題は、家族や友達は知っています。しかし、他の人は、すぐにはわかりません。このカードは見えないものが見えるカードなのです。

(1870字)

(2021.4 Written by Wakiko FUTAKUCHI)

(All pictures are drawn by Hinako FUJIMURA)

<参考資料>

- ・東京都 (2018) 『ヘルプマーク・ヘルプカードエピソード集』

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/helpmarkforcompany/lp/episode.html>

- ・「grape TREND」ウェブサイト「見知らぬ番号から相次ぐ着信、続く展開が『心に響く』」

<https://grapee.jp/894125>

(2021.5.1 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この

作品さくひんを利用りようする場合は、ほ「たどくのひろば」を出典しゅつてんとして示しめしてください。

例れい 出典しゅつてん: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.